

## 連携企業が支援の手

飯山市北原  
神社の祭礼

### 大灯籠建てや祭典係で

今年3・4の両日開催された、飯山市瑞穂北原地区の北原神社祭

礼に、同区と連携協定を結んでいる、東京のIT企業「株アジルコ

ア(阿部兵悦社長)の役員・社員が参加、準備作業から祭り本番の様々な役割を担った。



アジルコア社員の助力で建てた大灯籠の前で

北原区(佐藤輝美区長)とアジルコア社はことし1月、「北原区はアジルコア社の社員研修と福利厚生事業の受け入れを支援する」アジルコア社は、北原区の活力ある豊かな地域づくりのため、地域活動を支援する―とす

部会議を行い、5月以降には福利厚生事業として、社員3家族が公民館に宿泊している。ここ数年、過疎・高齢化が進む同区では、伝統祭事・行事の担い手不足が深刻化。このため、アジルコア社では、ことしの秋祭りに当たって準備作業から宵宮の獅子舞い、天狗のメ切などに社員を参

加させ、支援することを決めた。

3日午前中、公民館前広場では、アジルコア社の社員10人が参加して、祭りのシンボルともいえる大灯籠と吹き流しの設置作業が行われた。「御祭禮」と墨書された大灯籠は、精緻な格子が組み込まれた、住民自慢のもの。宵宮では、アジルコ

ア社の若手社員らが、大太鼓を担ぎ、鈴灯笼を持ち、あるいは天狗のメ切を幻想的に演出し、会場を照らす花火の係や、灯笼の灯を絶やさぬ係を受け持つて、祭礼を陰で支えた。同社では今月10日から北原で商品開発部が合宿、農作業支援として畑の草取りを行う。